



禮容筆釋

四

口仁9
1.264
4



玉椿 一ウ三三二二一三三二
 山樞 一三三三三三三三三三
 椎葉 一三三三三三三三三三
 落葉 二二二二二二二二二二
 本枯 一三三三三三三三三三
 七 祐貞
 六 一次
 五 吉規
 四 重政
 三 重房
 二 一
 一 一

十が書れし圖

表

玉椿

長サ三寸二分横寸五分
 山樞 椎葉 落葉
 本枯わのく拾ねりし

裏

三

長サ三寸二分横寸五分
 山樞 椎葉 落葉
 本枯わのく拾ねりし

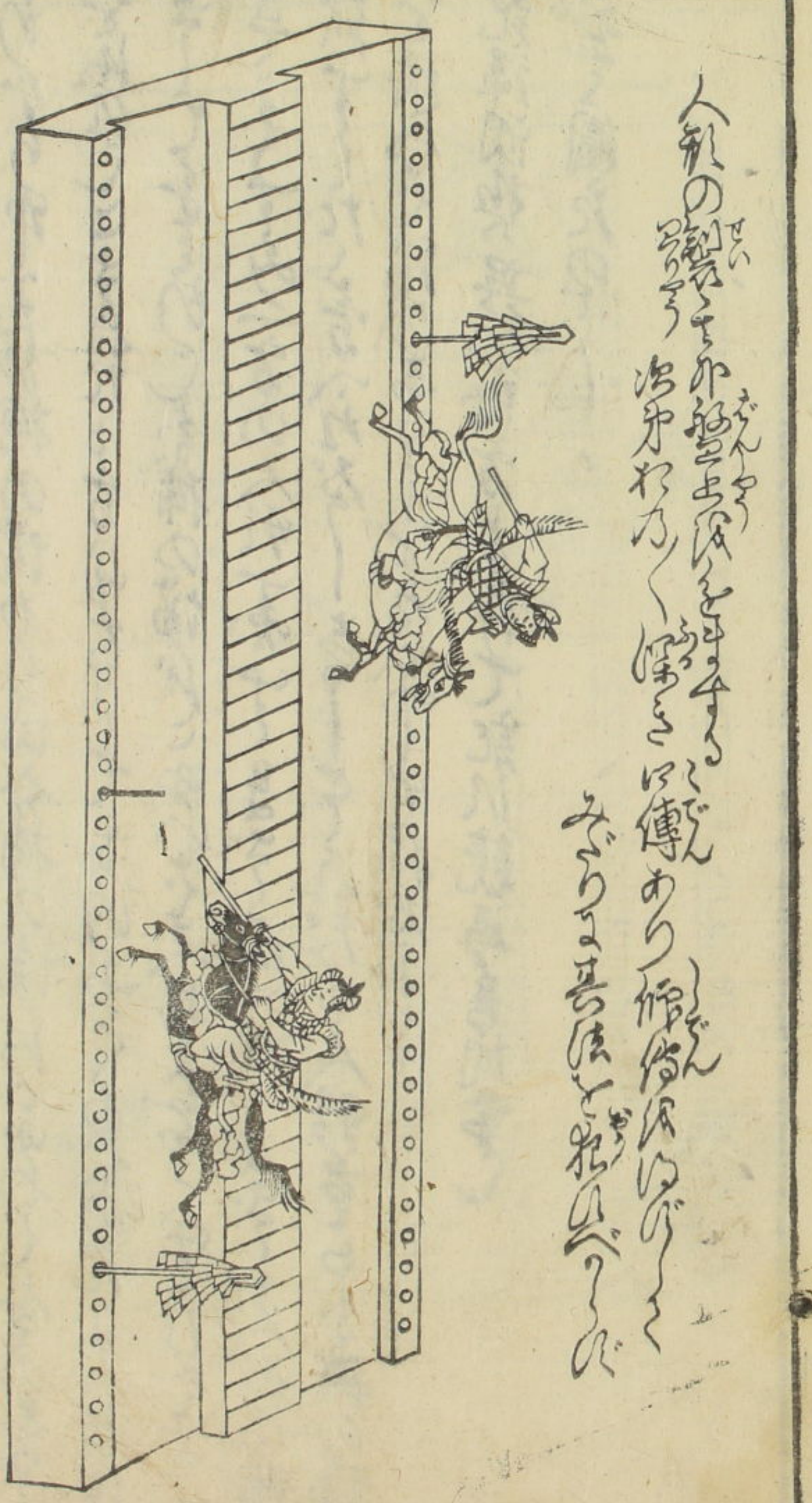
競馬書

けしる馬の馬名をいふ下色ありて競の十が馬と申すこれ十が
 書れれは用也但一がびききききききききききききききききき
 記帳ある一わらひの馬名かきききききききききききききききき
 若毛と云はれど又毎種二本二方ハ合一方ハ合一方ハ合一方ハ合
 一在の半人或ハ半人兒法所つゝあな一をいふとすまはるは
 式ハ一在の半人兒法所つゝあな一をいふとすまはるは
 本派中より一在の半人兒法所つゝあな一をいふとすまはるは
 くれ人數ハ何人あはれまききききききききききききききききき
 たる方より一在の半人兒法所つゝあな一をいふとすまはるは
 先是と一の馬とすまはるは一在の半人兒法所つゝあな一をいふと
 ありて一在の半人兒法所つゝあな一をいふとすまはるは

競馬香紀

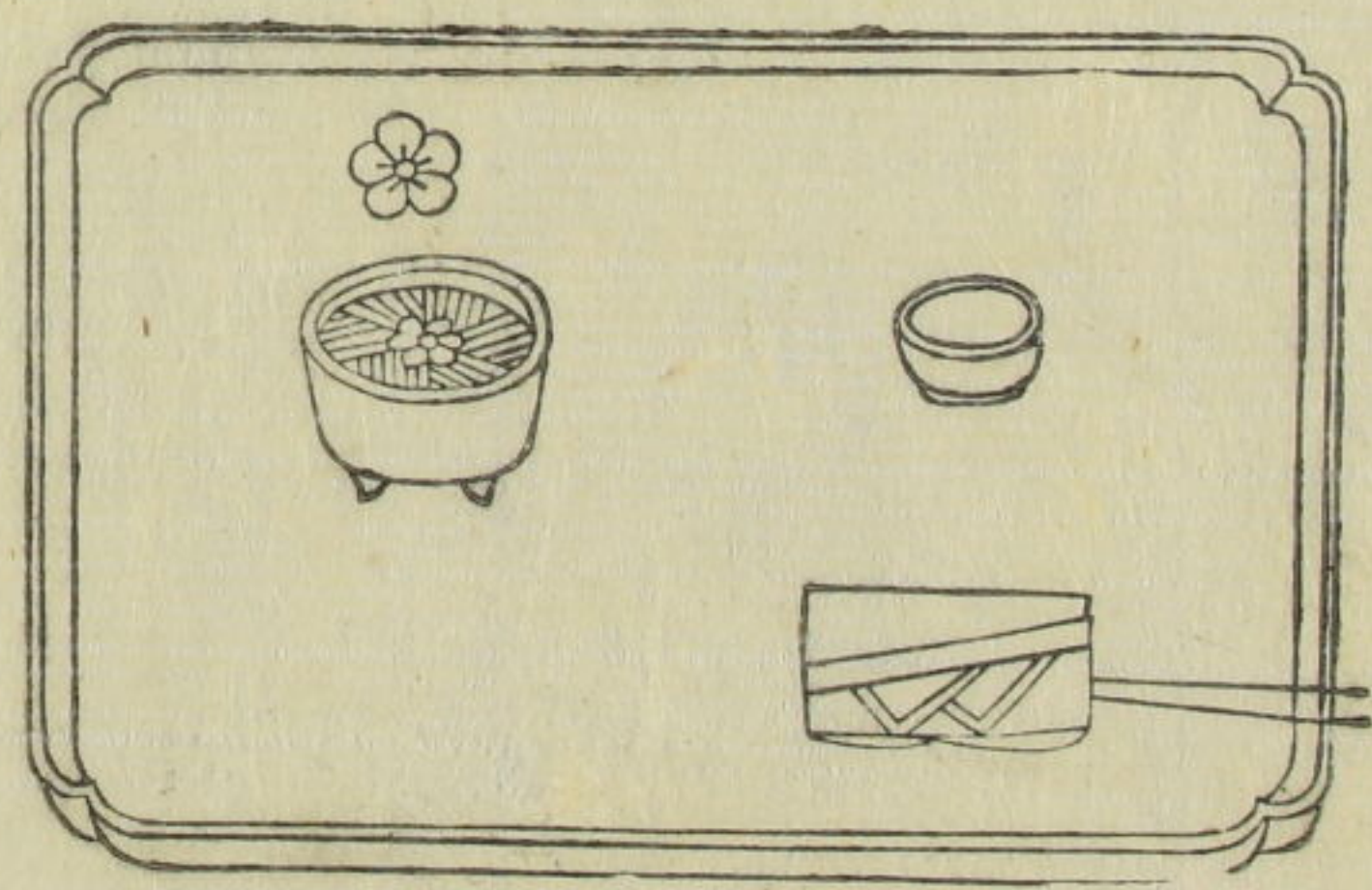
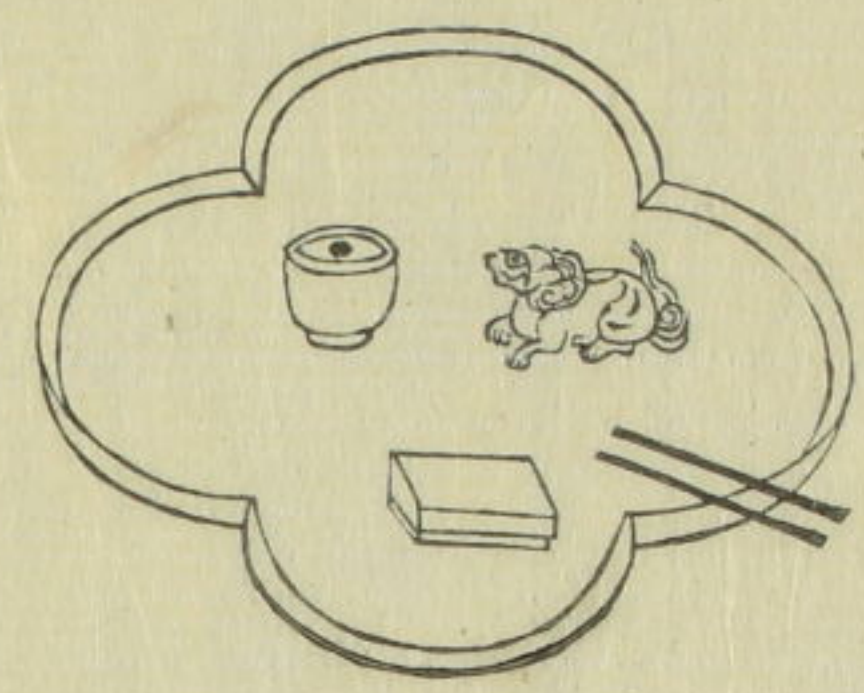
三	一	三	ウ	一	三	一	二	二
三	一	三	ウ	一	三	一	二	二
三	一	三	ウ	一	三	一	二	二
三	一	三	ウ	一	三	一	二	二
三	一	三	ウ	一	三	一	二	二
三	一	三	ウ	一	三	一	二	二
三	一	三	ウ	一	三	一	二	二
三	一	三	ウ	一	三	一	二	二
三	一	三	ウ	一	三	一	二	二
三	一	三	ウ	一	三	一	二	二

前よりこれより...
 競馬香紀...
 梅 二 三 三 三 一 一 二 一 一
 柳 三 三 三 一 一 一 一 二
 竹 三 二 三 三 一 一 三 二 一
 松 三 二 二 一 二 三 一 一 一
 蘆 三 一 三 一 一 三 一 一 一
 九点員
 黒方
 戸なり



人の...
 此方...
 傳...
 此...

常れも茶器がらり格でも
あくわるぐー大くこの圖きしん
のどーとくく三つうあこのやれ
よまぐーちび方のまんきんたの
方がかたのむらの方きんぐ
ひたり焼ぐへせおあふが何時
かうろよしうとせむ合やぐ



茶の事

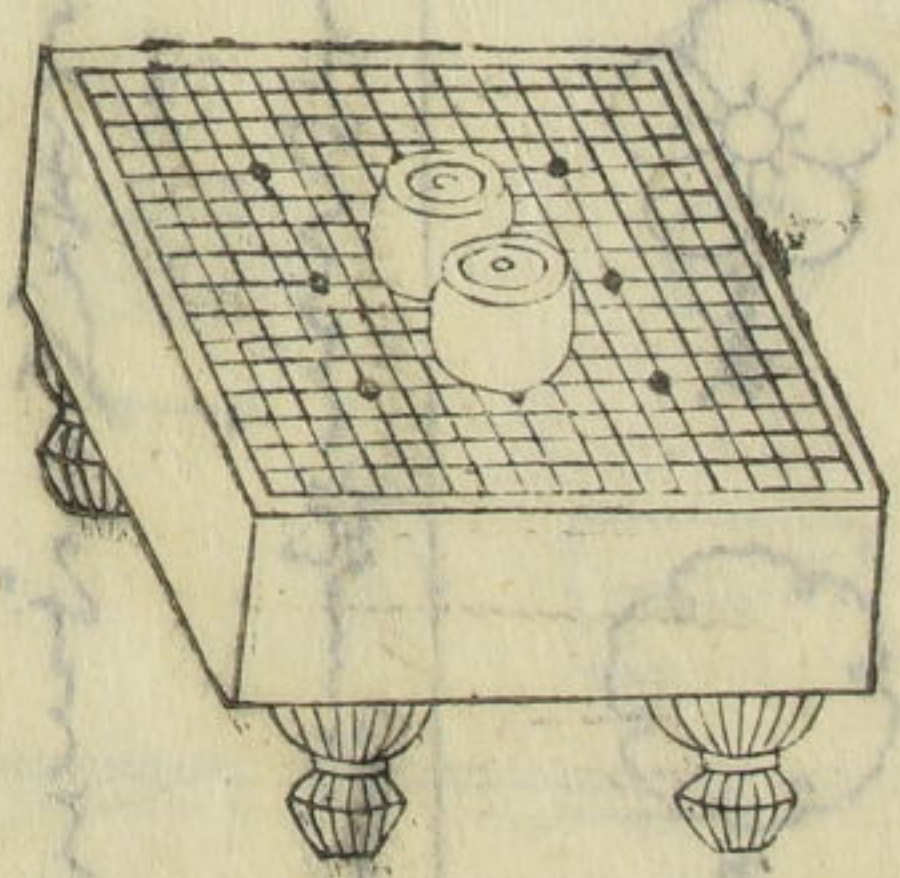
焼物たたくの度はなびりて茶室とあつてどし茶室
よのれぎて茶よつて茶室がよまきくおんしり焼物たたく
とんまはたぐくびんさ物とまはたたく時かなんまはたたく
わとあしたまののぼりて焼物のわくよまはたたくてし
茶室

或去よまきしんはてま茶室今牛の角とつて記し作れどし
茶室唯今茶のては用くまを
ふべきりし銀の肉角火よわが焼
てを喫かきつぐりたて美り
茶とと茶とよはをきり作れ
てして外の悪喫とやね茶
のりまき茶のやまよま
を茶ととつて下の圖の



其將琴の盤

おのく座のふかきふき次第の
 圖をとりてしし切又座をわさ
 べき足板のさしたのわたりより
 らんまげんたあのみん中より
 切板を人よむけききうよ
 ししは振まれと作わすは
 わるすやうの切とまへむけ
 てもまをさし四方切の
 んまよあふの板やうも
 べし一人の相よむりき
 ぎまのあふの板やうも
 らんまよあふの板やうも
 かにふりけへるびん
 色いんぬあふ



駕騎馬の礼

おのく座のふかきふき次第の
 圖をとりてしし切又座をわさ
 べき足板のさしたのわたりより
 らんまげんたあのみん中より
 切板を人よむけききうよ
 ししは振まれと作わすは
 わるすやうの切とまへむけ
 てもまをさし四方切の
 んまよあふの板やうも
 べし一人の相よむりき
 ぎまのあふの板やうも
 らんまよあふの板やうも
 かにふりけへるびん
 色いんぬあふ

御茶懐

御茶懐馬ののり座板のさかしの際
 さき車なるはさかしの
 馬はつとたる板とわらげたのよ
 らんまげんたあのみん中より
 切板を人よむけききうよ
 ししは振まれと作わすは
 わるすやうの切とまへむけ
 てもまをさし四方切の
 んまよあふの板やうも
 べし一人の相よむりき
 ぎまのあふの板やうも
 らんまよあふの板やうも
 かにふりけへるびん
 色いんぬあふ

とてく焼くはりしよもえ物すべ

主人仲風を御供す

主人より西へ入らざらんといふはどしどし女めくするはざんなく
あしきくび志望りよいらききいふよりいふ分りし事仲供の心がき
よ他より情すも氣配つけ世の事あてて井の病とくくひを
とりとのこし主人は入らぬは下等はぬやまづくび下等
あてて志望りく白布あててあらぬが

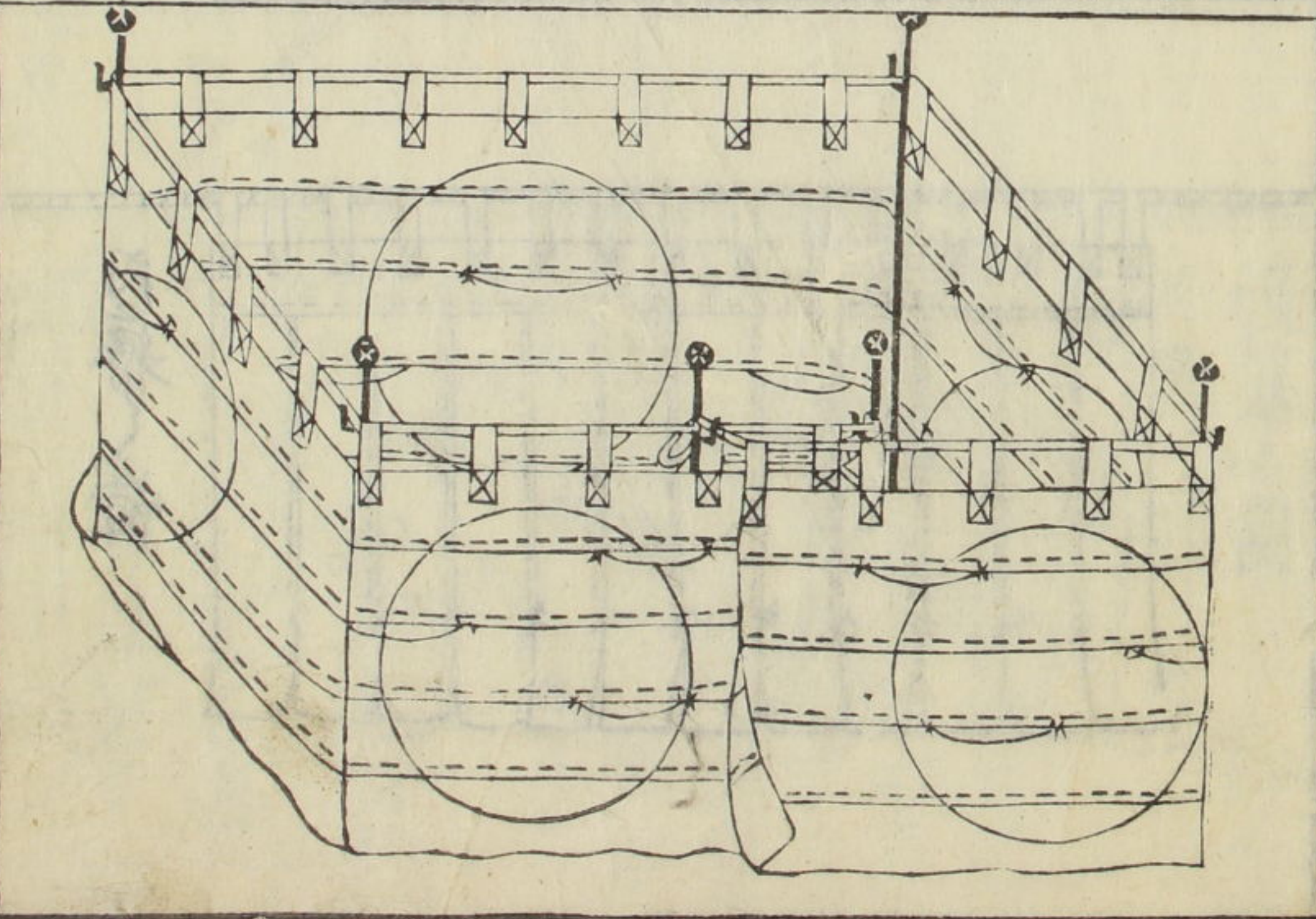
仲供不仕儀

西極は西極より西へいふははりし西の方よ木あ
らむ極めくお極し東の方よ木は木極はまはりし東の方より
あてていふ主人の由ぬあてていふは極らりの木は

幕うら極す

つよは花の幕一帖といふは極す事あてて一野の時ハ
あてて極く極す事あてていふは極らりの木は

の方上よなは下よむひとて
あひたるごとくおしたるよりおは
ゆとてあてるとちうへよなと
そのはなごよおははるよとて
印しと打合をらりあてて
そととてんおはた右極方より
とてゆづる極よぬぬ一野
うの時とおをせつら回すこと
まへ串と外よまへ極はらりて
幕か入る



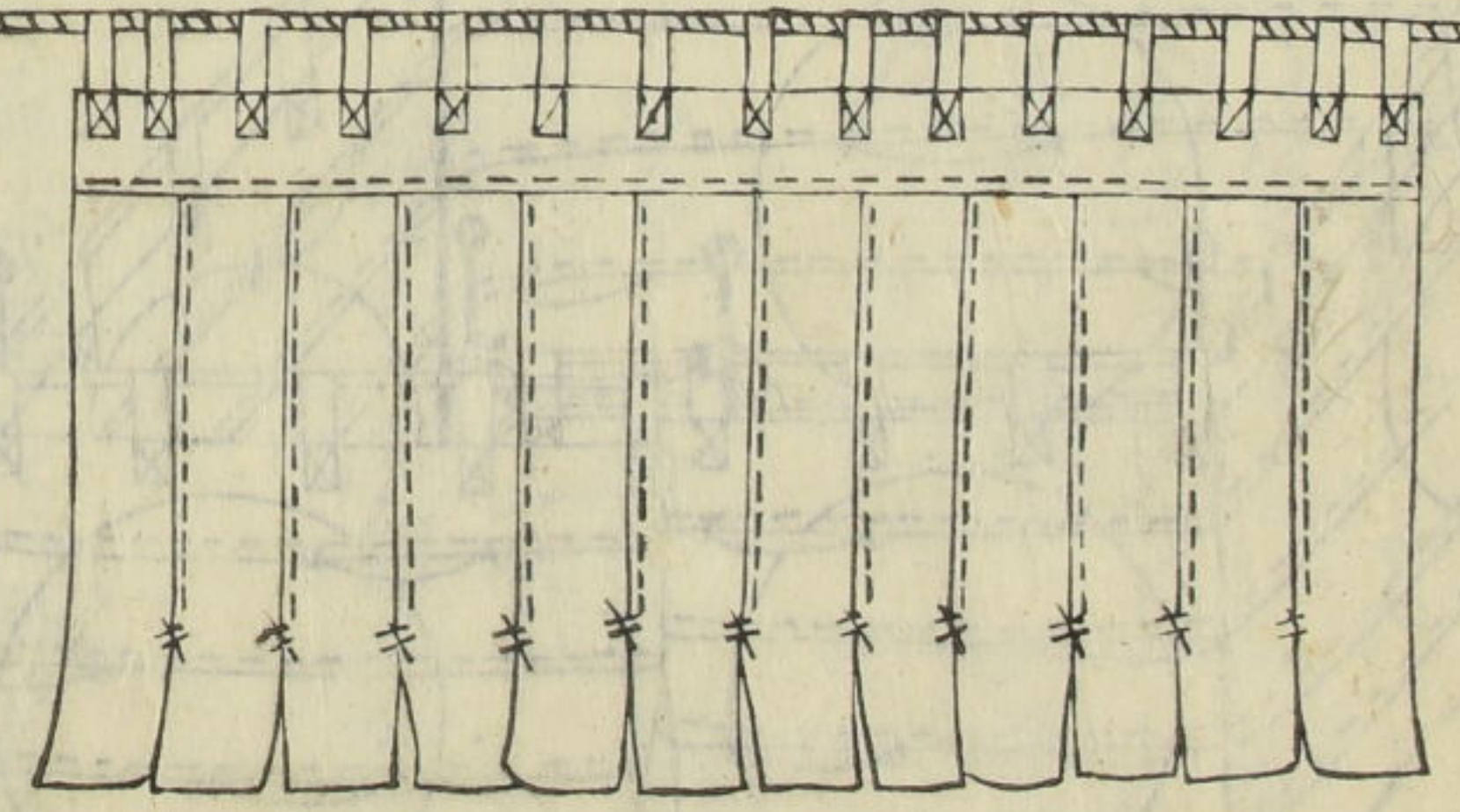
諸礼女儀前巻 巻之四

付く入る一列心かどの内は受
かり物付はた右とて芝居の界
と丸外の方へおわへ一埃ちが
けおちる

日幕くす

内まゝとまへ上は一幅界と接して
それより下のゆへにあげてまゝのこ
む上の換界よりまゝと付るなり
さぐり六十二界の換界あやぐ外幕
のりよせて中かどの内は左
まゝはわけても日幕くすしてまゝ
るまゝとまゝとまゝのりのあ
なごまのりのまゝとまゝとまゝと
まゝとまゝとまゝのりのまゝと
綿繰とすまゝのりのまゝとまゝ

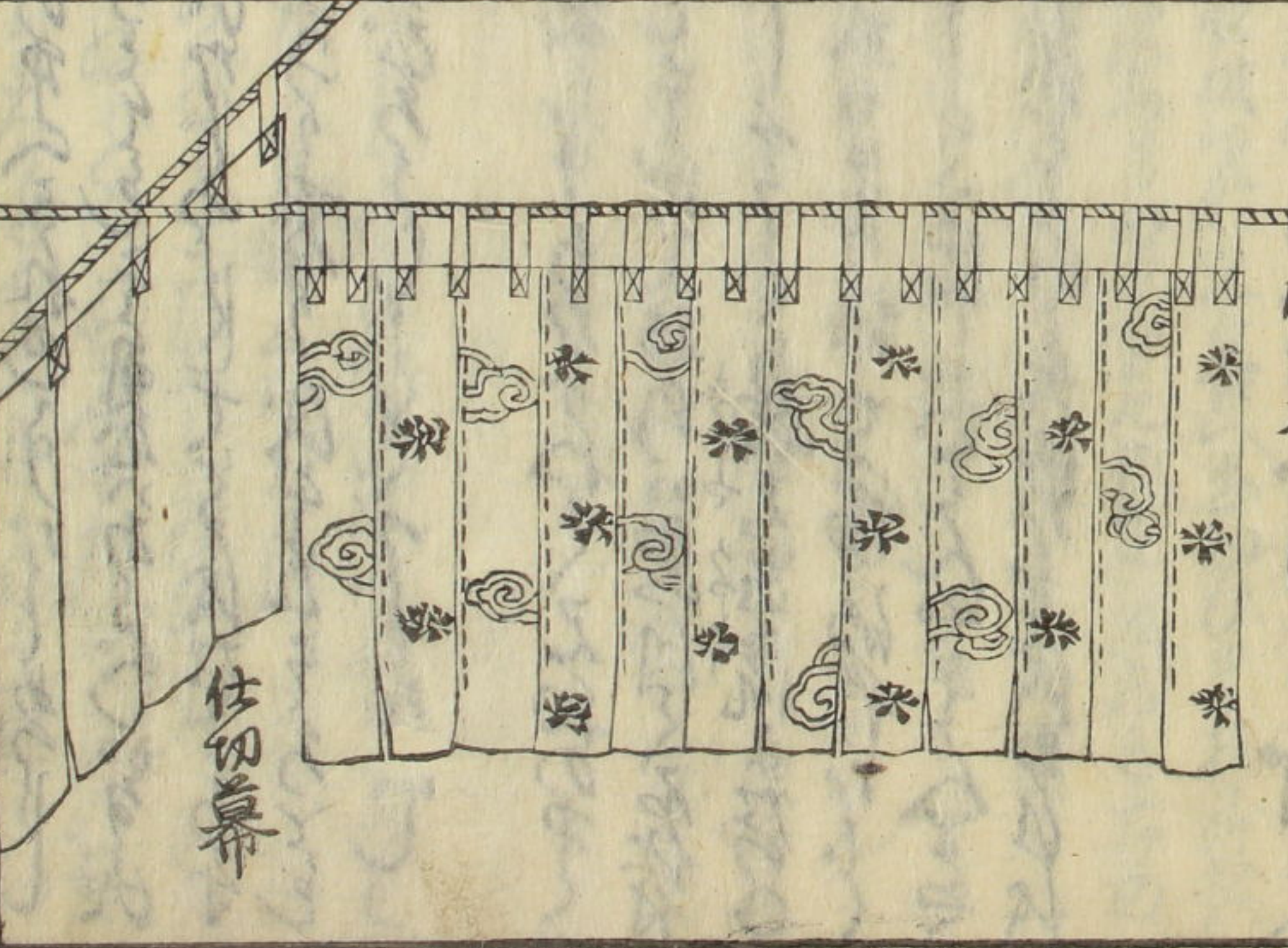
日幕くす



慢幕仕切くす

せんまゝと日幕の上の界れかま
とまゝとまゝとまゝとまゝとまゝ
仕切くすとまゝとまゝとまゝとまゝ
界のすくなまゝのこまゝとまゝ
あやぐとまゝとまゝのりよせて
まゝとまゝとまゝとまゝとまゝ
まゝとまゝとまゝとまゝとまゝ
まゝとまゝとまゝとまゝとまゝ

慢幕くす



ひんぎさうし曲馬なましくるぬの中へまればさすなぐあはし
かづびんいふけき美なるるなりをいそむるをいふはむしむる
ささかしくさるるのささかしくさるるのささかしくさるるの
事あるべしはむしむるもあげくさるるのささかしくさるるの
知るるさるるのささかしくさるるのささかしくさるるの

鞠を鞠する

まりのるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
それさるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
し鞠を鞠するの鞠実あるさるるのささかしくさるるの中へ
し中へ人さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
みさるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
まりのるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ

相侍人心地

まりのるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ

まりのるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ

産後

産後ものささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ
さるるのささかしくさるるのささかしくさるるの中へ

とるん若くは後の人へおれあげてまうひよあてて汗ばらして
 さしゆりやうき音人のなれよむわふひしぬして一人の故
 せつしつふするちとあらなりふ年家かどかうへ付く物なれ
 くりこらぬあ人ららるる三つぬぬあうたな作ほし
 介副の人へ得るべし予が如サの何葉檢授事家とゆり
 りるよ選擢の辰とくうりらるる上客より三四人目よ提原
 何びしとま一人たり彼を改撰ひよりり提原と申よれ後
 て我討とんことをりんとかうりらるる年大具えて我ん
 へしるる世説もと如後のゆたまべし介副の人分はさ
 なりる個法のゆたかべし

上客を辱つて

人の言へる態度よゆりまぬはさくわらうび上客まんのを
 あらぬる國をるる昔者よし言まはるるよりしを補ひ
 この極端其間よあひくお色のれを為あはれをなすゆり
 床かざり山下座あぬの海平よ氣は付た〜もまの人のまわり相毎氣

とけららるる色づぐん感ぬぬくちをうよあはれさりよれ
 長あはるるびん何すも節はさうれのまをすはし耕たあ
 堀梅佳ゆよ氣は付一あ夜と出ま入るる〜あはれしゆのね
 あい清らば上あぬをまよまづひあのまのさんさ〜上客
 てるこの氣は付ぬぬつ〜こりこりこりゆよ氣は付た

さうまを辱つて

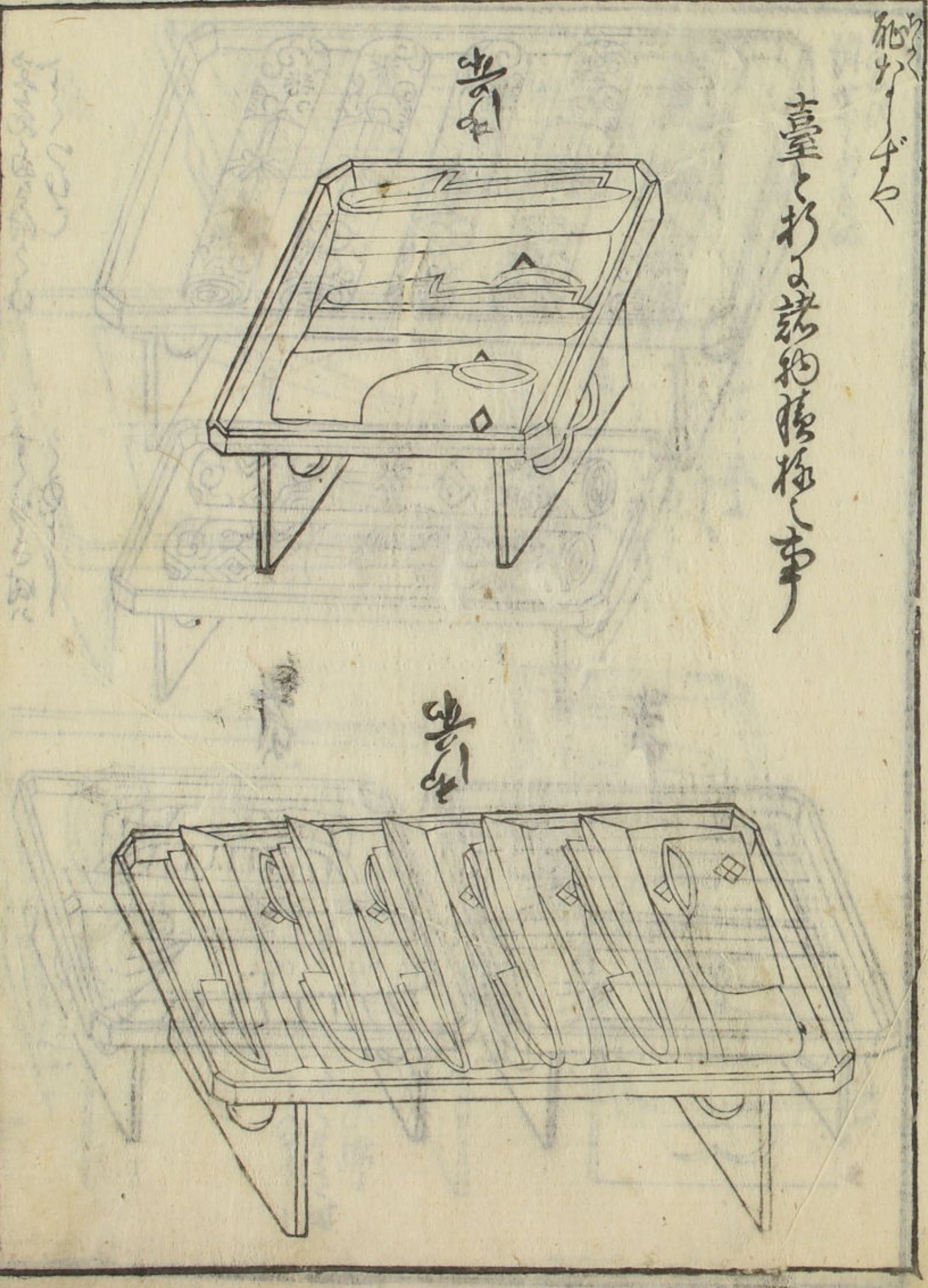
人ぬ各を辱せん〜あまの人のねつひよ交情のた〜おりん
 とあをわはれまをさしすま〜と〜り〜る〜るの言
 へりあまよぬ〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る
 まわはれ〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る
 べし〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る
 〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る
 〇孔子子路怒るたの三幅射又はまが〜る〜る〜る〜る〜る
 休は像〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る
 ら〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る〜る

たむとちんとり一法より出あり一きどくして後出あり
 中かた一とて

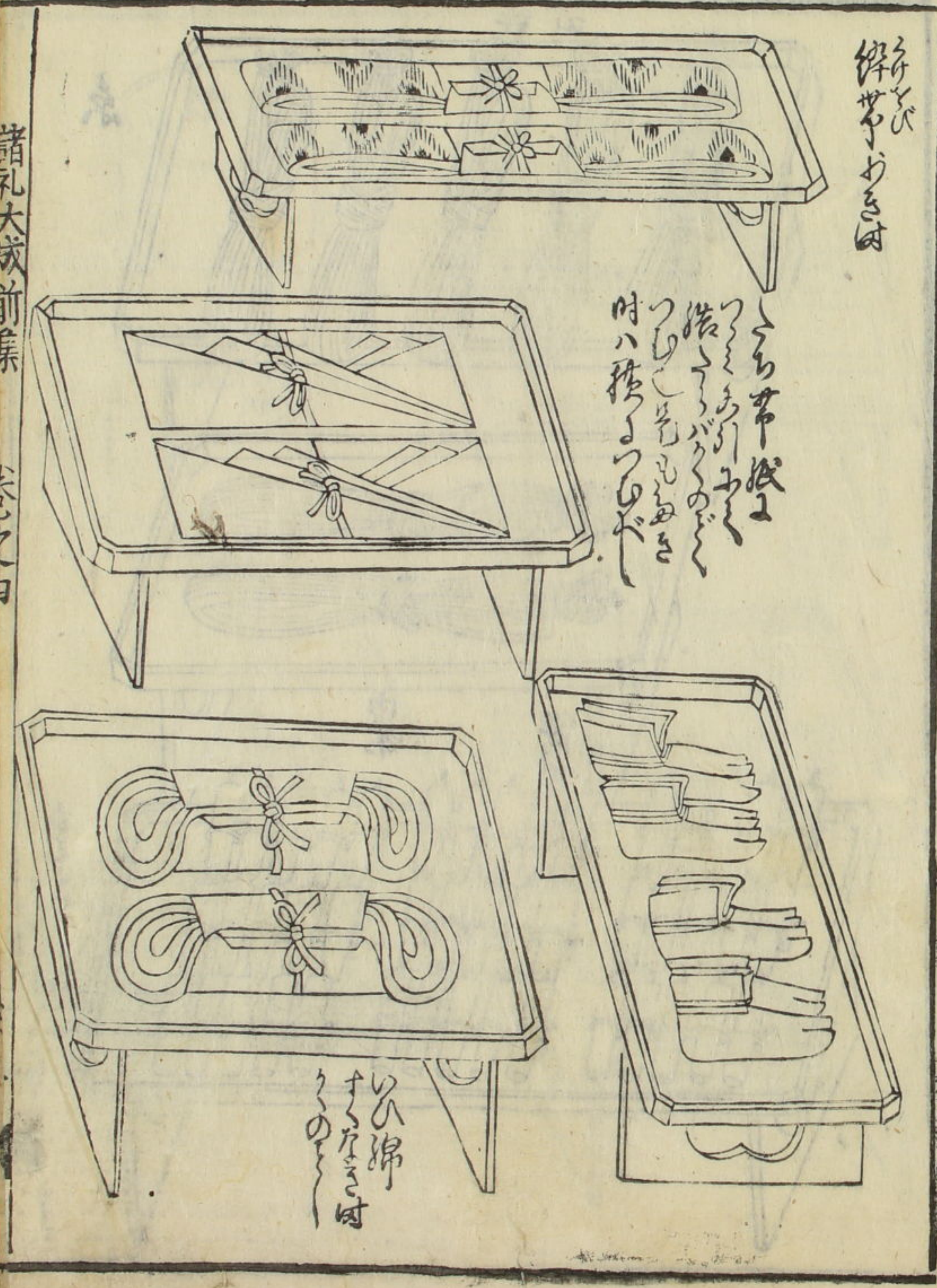
中かたの真月一移りて三つ出あり一む能事と三
 破と二しあ人の破つてよ女色あ方通達なく彼あ
 弟よ多事とて中かたの人のあつてあつてあつてあ
 あ方入達へくお事十半しあ者と三つあつてあつてあ
 たりとて一毛いあ方後あつて中かたのあつてあつてあ
 方わつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 多事とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 多事とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 今あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 めよ何ぞあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 足輝とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 功あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
 里あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ

和がーや

臺とちよ諸約括極事



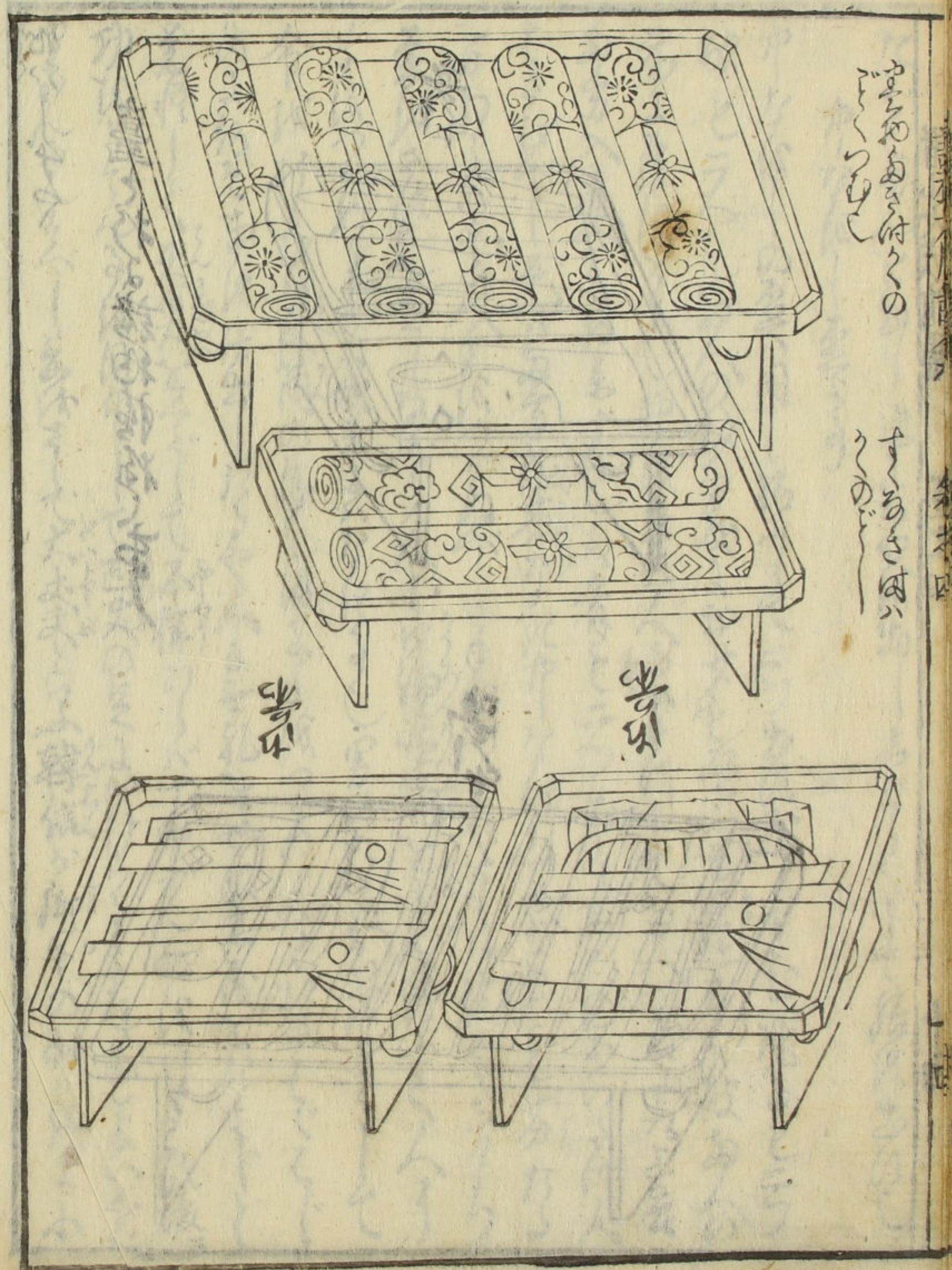
諸礼大成前集 卷之四 十四



解き物

つらき物
つらき物
つらき物
つらき物
つらき物
つらき物
つらき物
つらき物

いひ綿
つらき物
つらき物

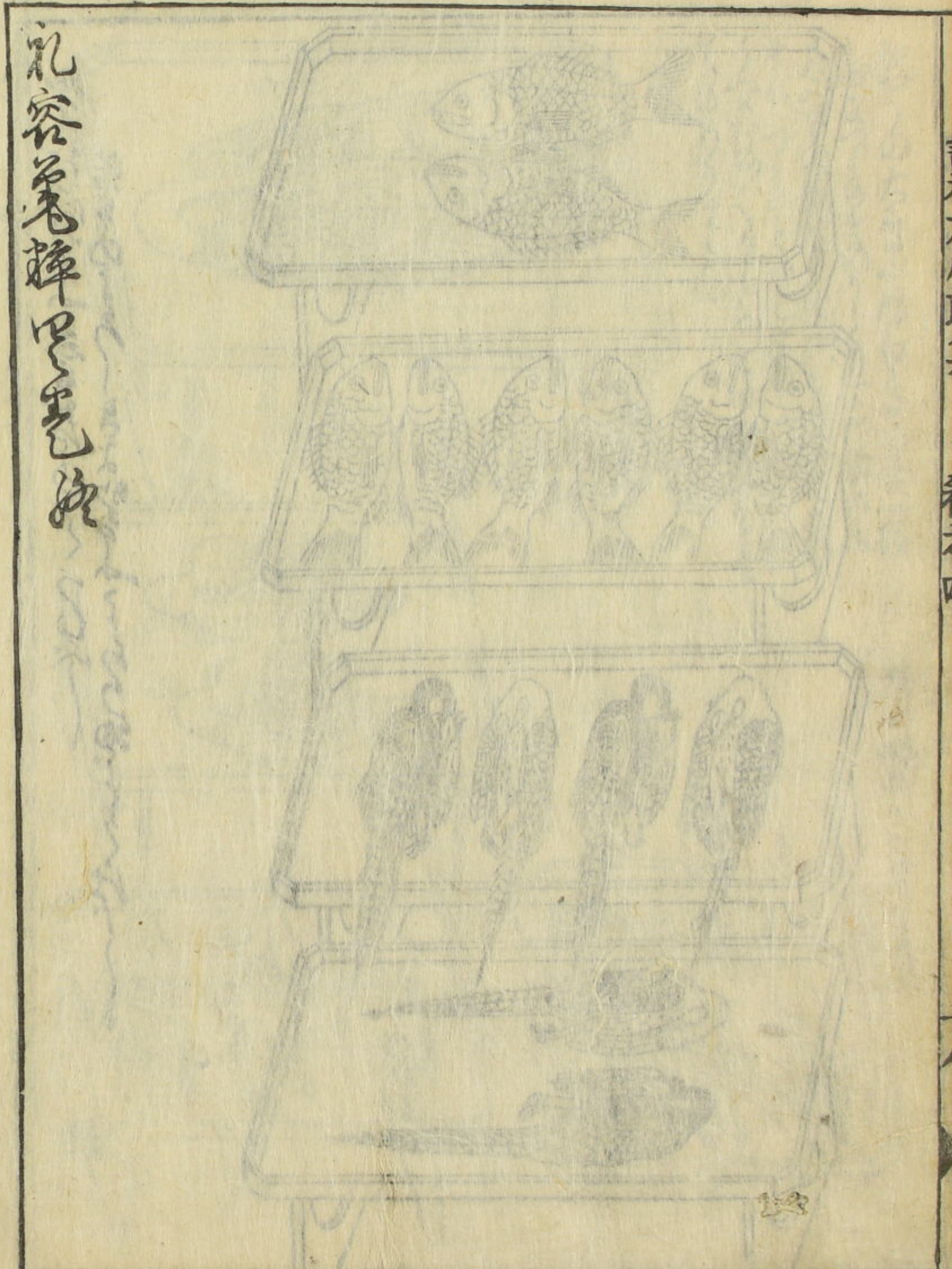


つらき物

つらき物

つらき物

つらき物



七

